

2006 年度

科目名 演習 I	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者 森 博行
授業テーマ 李商隠の詩		
授業の概要と目標 この授業の目的は、中国古典文学を訓読によって読み、現代語の翻訳しながら、中国古典文学の日本人による受容の方法や特徴を学ぶことである。あわせて本場中国の学者の古典に対する考え方や研究成果をも視野に入れ、日中両国の文学に対する考え方の同異などについても考えてみたい。素材は、晩唐の詩人・李商隠（812～858）の詩である。具体的な資料は、授業の中で紹介する。		
評価方法 出席態度と発表内容		
テキスト プリント配布	著者	出版社
参考書 必要に応じて指示する	著者	出版社
授業スケジュール・内容 前期 1 ガイダンス。2回目以降、作品を読んでいく。以下、詩題を示しておく。 2 雪に対す・その二 3 2の続き 4 牡丹 5 4の続き 6 促漏 7 6の続き 8 聖女祠 9 8の続き 10 野菊 11 10の続き 12 同年の李定（以下、省略） 13 12の続き 14 重ねて感有り 15 14の続き 後期 1 関を出で盤豆館に宿し（以下、省略） 2 1の続き 3 子初が郊墅 4 3の続き 5 井絡 6 5の続き 7 宋玉 8 7の続き 9 前の蔚州（以下、省略） 10 9の続き 11 春日懷を寄す 12 11の続き 13 劉評事が永樂の閑居（以下、省略） 14 13の続き 15 まとめ		